

## 痛!! 街中に生えるトゲのある植物

5月から9月頃、道端や植込み、駐車場の脇などから大きく伸びる鋭いトゲをもった植物。何かの拍子に触って「痛!!」と叫んだことのある方はいらっしゃいませんか?

これは、ヨーロッパ原産のキク科植物で、アメリカオニアザミ(別名:セイヨウオニアザミ、ヒレオニアザミ)といい、環境省の生態系被害防止外来種リストにも選定されています。

ところが、大きく成長すると皮膚へ簡単に突き刺さるほど鋭いトゲを持つため、抜き取られずに放置されることも多く、近年、名古屋市内においても生育範囲を拡大しつつあるように感じています。

今のところ名古屋市内での分布は局地的ではありますが、触ることができないほど鋭いトゲを持ち、生えているだけで厄介な存在であることから、人的被害が拡大する前に現状を正確に把握し、防除を試みる必要があると考えています。



アメリカオニアザミは、越年草(または一年草)で、秋(または春)に発芽すると、しばらくロゼット葉で生育し、十分に大きくなると花茎を伸ばして急成長し、大きなものでは2m近くになります。6月から8月にかけて赤紫色の花を咲かせた後、長い冠毛(綿毛)のついた種子を多数つくり、風で飛散して生育範囲を拡大しています。



植物全体を覆うトゲは幼株の頃から生えているものの、それでも我慢できる程度の痛みのため、頻りに草取りされている場所では見かけることの少ない植物ですが、草取りの少ない場所ではロゼット葉が顔を覗かせていることもあります。



葉や茎に生えるトゲ

アメリカオニアザミの花

歩道の脇に生えるアメリカオニアザミ

発芽したばかりのアメリカオニアザミ

アメリカオニアザミの種子

そろそろ花茎が伸びそうなアメリカオニアザミ

ロゼット葉をつけるアメリカオニアザミの幼株

## 名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校 理科部



瑞穂区高田町3丁目28番地の1

名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校の理科部には、中高合同で約20名の生徒が所属しています。活動は週3日ほどで、校内での科学実験をはじめ、月1回、環境に関する地域活動にも取り組んでいます。こうした地域活動の一環として、『山崎川四季の道街路樹保存会』の皆さんと一緒に、かなえ橋から石川大橋にかけてのボランティア清掃を実施。今年で4年目となりました。



グループに分かれて掃除をします

また、生物調査は、学校の近くを流れる山崎川を中心に活動していますが、年に数回、合宿などの機会に県外の山や川の調査・観察も行っています。

山崎川には、モツゴやフナ、コイ、ミナメダカなど様々な生きものが生息していますが、近年では外来種が増加し、在来種がおびやかされている状況が続いています。

先日は、カメの調査を実施。前日の昼に仕掛けたカメラ



5個を回収したところ、ニホンズッポン1匹、クサガメ2匹を捕獲しました。その後、個体識別用のマーキングや種類、性別などを記録し、川へ放しました。

こうした生物調査の活動や、調査結果などは、いろいろな機会に発表しており、昨年は「全国高校生ESDセミナー」でも発表しました。なごや生物多様性センターのイベントにも積極的に参加。「生物多様性ユースひろば」にも参加します。

## 掲示 第2回 なごや生物多様性センターまつり

日時 11月1日(日) 午前10時~午後3時 会場 なごや生物多様性センター

去年初めて開催し、「また来たい!」と好評だったおまつりを今年も開催します。生きものに触れたり、標本を見たり。自然や生きものについて、子どもから大人までみんなが気軽に楽しんで学べる内容です。ぜひお越しください!

調査で捕まえたカメラなどの展示

チリメンジャコの中からモンスターを探そう

木の葉など、自然の素材を使って工作しよう

海の生きものに触れてみよう

だなも 「生物多様性キャラクター応援団」

同時開催 生物多様性ユースひろば

高校の生物部等の生徒達が、活動内容や調査研究成果を発表します。

「市民生きもの調査員」に登録しませんか?

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイト!

### 問い合わせ・申し込み先

発行: 名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地 (地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyo.city.nagoya.lg.jp

なごや生物多様性センターウェブサイト <http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity>

名古屋市公式ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp/> なごや生物多様性センター 検索

なごや生物多様性保全活動協議会 <http://www.bdnagoya.jp>

ウェブサイトQRコード



# 生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

16号

平成27年10月

特集

## 好奇心をくすぐる13講座! 夏休みの自由研究にも! なごや生物多様性サマースクール2015

7/11(土) 蝶の採集と標本づくり (講師:名古屋昆虫同好会)

7/11(土) 甲虫の採集と標本づくり (講師:名古屋昆虫同好会)

7/20(月・祝) 見てみよう! 田んぼの生きもの・川の生きもの (講師:NPO法人日進野菜塾)

7/22(水) チリメンモンスターを探せ! (講師:山崎川グリーンマップ)

7/24(金) カメを中心に水辺環境を観察しよう (講師:日本カメ自然誌研究会)

7/25(土) 竹を知り、竹に親しもう (講師:環境カウンセラー 鬼頭 保)

7/25(土) 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう! (講師:相山緑地オアシスの森くらぶ)

7/28(火) 香流川・矢田川の水棲生物 (講師:環境科学調査センター)

8/1(土) クモのふしぎ発見! (講師:中部蜘蛛懇談会)

8/6(木) 田んぼに育つ生きもの世界 (講師:NPO法人日進野菜塾)

8/12(水) 東山の森に入り、森を知ろう (講師:なごや東山の森づくりの会)

### CONTENTS

特集 なごや生物多様性サマースクール 2015 ..... P1~3

TOPIC レッドデータブックなごや2015 ..... P3~4

ヒキガエルアンケート調査 中間結果報告 ..... P4

痛!! 街中に生えるトゲのある植物 ..... P5

活動紹介 名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校 理科部 ..... P6

掲示板 なごや生物多様性センターまつり・生物多様性ユースひろば ..... P6

# 池のプランクトン観察や川の生きもの調査も! なごや生物多様性サマースクール 2015

夏休みの自由研究に活かせるよう、なごや生物多様性保全活動協議会では、子どもたちがさまざまな生きものと触れ合い学べる13講座を開催しました。

講座は、森や川など身近な環境に生息・生育している生きものたちがテーマ。目の前に広がる未知の世界を、楽しみながら真剣に学んでいました。そんなサマースクールの様子を、2講座ピックアップしてご紹介します。



## 7/31 (金) 池のプランクトンの世界

講師 環境科学調査センター  
滋賀県琵琶湖環境科学センター



場所 茶屋ヶ坂池(千種区)



場所 隼人池(西区和歌山)



【講師】  
滋賀県琵琶湖環境科学  
研究センター  
一瀬 諭さん

プランクトンとは、水中で浮遊している生物のこと。池の水質によって存在するプランクトンは異なり、その種類によって今後の水質の変化を予想することもできます。この講座では、茶屋ヶ坂池と隼人池のプランクトンを調査しました。

当日は、池の水をバケツで汲みとり、プランクトンネットで濾過してプランクトンを集めました。そして採集したプランクトンをなごや生物多様性センターに持ち帰り、顕微鏡でじっくり観察すると…。動きまわるプランクトンがスクリーンに映し出され、参加者の目は釘付けに。検索表を見ながらひとつひとつ種類を書き出していくと、茶屋ヶ坂池には、サヤツナギやツボフムシが、隼人池ではミクロキスティスやアウラコセイラなどがいることがわかりました。また、滋賀県琵琶湖環境科学センターの一瀬諭さんが琵琶湖で採集したプランクトンも観察。琵琶湖の水の中には、理科の授業でおなじみのボルボックスやミジンコの姿が!子どもたちから「おぉ〜!」と歓声が上がりました。

講座の最後に、参加者から「茶屋ヶ坂池のプランクトンを隼人池に入れたら水質は変わるのですか?」など質問が飛び交い、熱心にメモをとる姿も。普段は見ることができないプランクトンの世界が垣間見えた貴重な一日となりました。



茶屋ヶ坂池

琵琶湖

隼人池

## 8/5 (水) 大矢川の生きもの調べ

講師 愛知守山自然の会



場所 大矢川(守山区)



守山区にある東谷山。その麓を流れる大矢川は、庄内川の支流であり、源流は東谷山の細流、愛知用水左岸の側溝からの細流、池・湿地からの細流。今回はこの三つの源流が流れこむ場所で、どんな生きものがいるのかを調査しました。

街中を流れる川より水温の低い大矢川。さっそく川に入ると、子どもたちは一斉に「ガサガサ」を開始。「ガサガサ」とは、岸辺の草の下や、水の流れの緩い場所に潜んでいる生きものを、その名の通り「ガサガサ」とタモ網に追い込んで採集すること。子どもたちは元気いっぱい動きまわり、タモ網の中を覗き込んで、次々と、採った生きものを種類ごとに透明のケースに収集。その後で、じっくり観察しました。

この日採集した生きものの中には、ここ数年は大矢川に姿を見せなかったというカワムツや、絶滅危惧種であるヒメタイコウチをはじめ、外来種であるアメリカザリガモもいました。参加者した子どもたちは「生きものがたくさん見つけれられて楽しかった」「珍しい魚が採れてよかった」などと嬉しそうに話していました。



## レッドデータブック なごや2015

本市では、平成24年~26年度にかけて名古屋市の野生動物植物の生息・生育実態について調査を行い、平成27年4月に「レッドデータブックなごや2015」を公表しました。



### 絶滅の危機を示す手がかりとして

危機レベルに応じてカテゴリー(ランク)ごとに種名を掲載した「レッドリスト」、その種ごとの生息状況などを解説した「レッドデータブック」。いずれも危機にさらされている野生動物の現状を知る手がかりとなるものです。

### どこで見られるの?

「レッドデータブックなごや2015」は市公式ウェブサイトから閲覧・ダウンロードすることができます。より詳しく知りたい方は、ぜひ市公式ウェブサイトをご覧ください。

▶▶ レッドデータブックなごや2015 検索

また、平成27年度中に、「レッドデータブックなごや2015」を名古屋市立図書館、名古屋市環境学習センター(エコバルなごや)に配架予定です。なお、販売は行いません。

カテゴリー(ランク)	説明	
絶滅(EX)	名古屋市ですでに絶滅したと考えられる種	
絶滅のおそれのある種(絶滅危惧種)		
絶滅危惧IA類(CR)		
絶滅危惧IB類(EN)		
絶滅危惧II類(VU)		
準絶滅危惧(NT)		
情報不足(DD)	評価する情報が不足している種	

前号(15号)に引き続き、名古屋市の絶滅のおそれのある野生動物について、その一部をご紹介します。

### 鳥類

#### ハマシギ

(2015)  
新規  
準絶滅危惧



(撮影:森井豊久)

秋期、主に南西部の干潟に群れて渡来し、翌春まで居残るものと、さらに暖地に渡って冬を越すものがいます。かつては庄内川河口部で1万羽を超す群れが観察され、国内最多の記録となりましたが、その後確認数はだんだんと減り、今では1/10程度となりました。

#### エリマキシギ

(2015)  
新規  
準絶滅危惧



(撮影:森井豊久)

水田や湿地を好む旅鳥(渡りの途中で通過する鳥)のため、そのような淡水湿地が激減している市内では、深刻な減少が懸念されます。元々数が少ない鳥ですが、市内では主に秋から冬に冬羽の個体が見られ、稀に夏羽の個体が春に見られます。繁殖地(寒帯~亜寒帯のツンドラ等)では複数の雄が集まって求愛集団を作り、首まわりの羽を拡げてダンスをしますが、市内で見られる夏羽の個体の中には、稀にその動作の片鱗を見せるものもあります。

### 昆虫類

#### オオシモフリズメ

(2015)  
新規  
情報不足



(採集:田中多喜彦)

開張140~160mmの、日本最大のズメガです。成虫は春3月下旬~4月に出現します。東海地方以西の里山に局地的に生息する種で、県内では近年減少傾向にあります。名古屋市内では、2014年に守山区東谷山で初記録されました。詳しい分布実態はまだ分かっていません。

#### マダラウスズミケンモン

(2015)  
新規  
準絶滅危惧



(採集:田中多喜彦)

低地~丘陵地のクヌギやアベマキのある雑木林に生息する蛾です。全国的に産地の極めて限られる希少種で、県内では1970年の現豊田市の記録があるのみです。市内では3地点で記録されていて、そのうち千種区平和公園と周辺の緑地にはかなり生息しています。

## ヒキガエルアンケート調査 中間結果報告 (8月末時点)

アズマヒキガエル(*Bufo japonicus formosus*)は、名古屋市の「レッドデータブックなごや2015」で新たに絶滅危惧II類に選定されました(ブック2010では絶滅危惧種ではありませんでした)。本種は、市内では主に東部の丘陵地、公園や庭先などでも見られ、千種区、中区、守山区、緑区、名東区、天白区の6区に分布するとしています(名古屋市、2015)。

なごや生物多様性保全活動協議会では、アズマヒキガエルの分布状況とその推移を調べるため、アンケート調査を行っています。これまでに集まった報告を簡単にまとめたものが下の図です。図から、市内全区で生息していたことが明らかになりました。アンケートにご協力頂いた皆様に感謝の意を申し上げます。

亜種のニホンヒキガエル(*Bufo japonicus japonicus*)の平均寿命は、雄で6~7年(最高11年)、雌で5~6年(最高8年)との報告があります(奥野、1985)。アズマヒキガエルも同じくらの寿命だと考えると、5~10年前に目撃情報があり、それ以降目撃情報のない東区、瑞穂区、熱田区、中川区、港区の5区は絶滅寸前で、11年以上目撃情報のない北区と西区では、絶滅してしまった可能性があることが見えてきました。

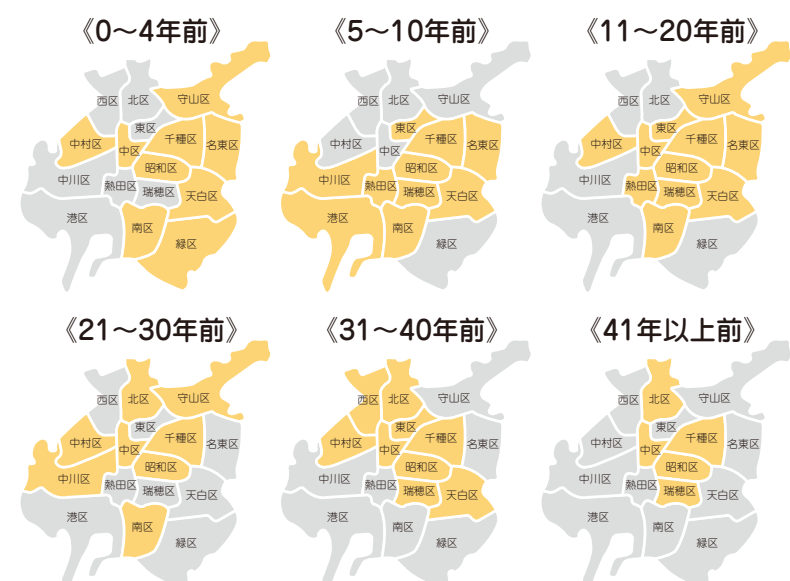
引き続きヒキガエルアンケート調査を実施していますので、皆さまのご協力をお願いいたします。ヒキガエルアンケート用紙は以下のURLよりダウンロードできます。

<http://www.bdnagoya.jp/introduction/activities/>  
(生物多様性市民協働推進員 寺本匡寛)



(撮影:浅香智也)

### 報告のあった区



【引用文献】奥野良之助、1985、ニホンヒキガエル*Bufo japonicus japonicus*の自然誌的研究V、変態後の生残率と寿命、日本生態学会誌、35:93-101。  
名古屋市、2015、名古屋市の絶滅のおそれのある野生動物 レッドデータブックなごや2015-動物編、名古屋環境局環境企画部環境活動推進課、名古屋市、p.134